20

統治下朝鮮における日本人医学者の肺ジストマへの取り組み

大西　雄二
大西医院

はじめに

統治下朝鮮において日本人医学者が医学教育，疾病の克服に努力し成果をあげた．風土病として流行を極めていた肺ジストマの撲滅はそのひとつである．

芳賀栄次郎（1864～1953）は初代の京城医学専門学校長として医学教育の基礎を創った．佐藤剛蔵（1880～1960）は 38 年間在鮮し，医学教育に係わった．小林春治郎（1884～1969）は寄生虫学の研究者として多くの業績をのこした．

当時の状況

芳賀は「肺ジストマ症は朝鮮人を肉体的に精神的に毒する恐るべきものでこの風土病に犯さるるもの，その十中七, 八に上るという現象」と述べ撲滅を願った．小林春治郎をはじめとする朝鮮在住の日本人医学者たちが肺ジストマの撲滅への研究業績をあげた．

医学教育・研究機関

1907 年京城（現・ソウル市）に新設の大韓医院は，1910 年併合の際に朝鮮総督府医院付属医学講習所と改まった．1916 年京城医学専門学校に昇格した．同年芳賀は肺ジストマ病因研究のため，医院官制を改正し総督府医院研究課を置いた．

1926 年京城帝大医学部が設置され，総督府医院は大学医学部付属医院となった．各施設で医師を約 6,500 名養成し，その半数は朝鮮人医師であった．

大学医学部微生物講座の目的は，朝鮮特種の動物性病原に起因する疾患の研究とその克服を期すことであった．小林晴治郎は，1916 年から朝鮮総督府医院伝染病及地方病研究科に就任，1929 年京城帝大微生物第二講座教授となった．

肺ジストマ研究の歴史

1914 年第 2 中間宿主が淡水産カニであることが明らかにされ，1918～1921 年の間にカワニナが第 1 中間宿主であることが決定され，日本においてその発育史が完成された．

小林が任用されたのは，肺ジストマなどの根絶のためであった．一貫して朝鮮における寄生虫学の研究と予防と撲滅に力を尽くした．肺ジストマ汚染は朝鮮人の嗜好するカニの食用のためであり，予防医学に貢献した．

おわりに

統治下で設立された医学校は現地人医師の養成が目的のひとつであり，多くの医師を輩出した．さらに蔓延していた寄生虫疾患の研究に重要な役割を果たした．日本人医学者たちの努力により朝鮮の肺ジストマは克服された．朝鮮の医学史を飾るものである．